



メッシュ・サポート通信

2016年3月号

2016年2月の救急活動実績 計29件(累計1215件)

伊江村13件(うち3回は医師派遣)、伊平屋村2件(医師派遣)、伊是名村1件、
国頭村6件、名護市1件、大宜味村3件、東村2件、鹿児島県(与論島)1件

今月のありがとうございます。

多くの方々のご支援の中から、抜粋して掲載させていただいています。



- 2月 4日：沖縄県立石川高等学校様より122,926円のご寄付をお預かり致しました。 (写真右)
- 2月 7日：伊江島ハイビスカス祭り会場にて合計285,000円のご寄付をお預かり致しました。 (写真左)
- 2月10日：ライオンズクラブ国際協会337-D地区沖縄リジョン1Z様より50,000円のご寄付をお預かり致しました。
- 2月11日：金武町ジュニアリーダー様より110,324円のご寄付をお預かり致しました。 (写真中央)
- 2月20/21日：おきなわマラソン会場にて224,918円の募金をお預かり致しました。
- 2月26日：沖縄県立読谷高等学校様より35,755円のご寄付をお預かり致しました。
- 2月29日：一般財団法人共立国際交流奨学財団様より700,000円のご寄付をお預かり致しました。

活動資金状況

保有残高:約1,580万円。約2.1ヶ月間(2016年4月上旬まで)の運航が可能です。

メッシュ救急ヘリの運営には月額約750万円の活動資金が必要です。(公的ドクターヘリ予算の約1/3にて運営)
費用内訳:機体リース料15%,機体維持費10%,施設維持費5%,燃料費5%,運航スタッフ費用50%(35%は委託),法人運営費15%

年間活動費9,000万円

メッシュ・サポートへのご支援よろしくお願いします。

会員申込

県内各郵便局にて
お申込みいただけます。

募金箱

リボウストア・TSUTAYA・メガネ一番・丸三ランドリー・京都屋クリーニング
りゅうせき商事AUショップ・はなまるうどん・わだや・
(株)オープンパートナーズ・各店に設置。

公式フェイスブック



活動情報と動画を配信しています。「いいね!」を押してより多くの方々へのPRにご協力ください。

寄附・会費の銀行振込先

琉球銀行	名護支店	(普)	793542
沖縄銀行	名護支店	(普)	1625737
沖縄海邦銀行	名護支店	(普)	0662317
ゆうちょ銀行	01770-5-135567		

名義は「メッシュ・サポート 又は トクビ」メッシュ・サポート」となります。

民間ドクターヘリメッシュサポート

古川 誠二（鹿児島県・与論）

私は離島医療に携わって約30年にな

る。その間、離島にも大きな病院が出来、医療が格段に充実したが、それでも島では完結出来ない病気があり、緊急搬送のための手段は欠かせない。一刻を争う処置が必要な時に、周りを海に囲まれた離島では、車での移送という選択肢がない。患者搬送の方法として昼間はヘリコプターかセスナ機、あるいは民間機、夜間は自衛隊のヘリコ



イラスト/小川和政

プターを要請するしかない。

私の住む与論島は鹿児島県の最南端の島だが、沖縄県の辺戸岬が20km先に見えている。昔は琉球の北山王の支配下にあったが、琉球が薩摩藩との戦いに敗れて以降、薩摩藩の支配下に置かれた。そして戦後は一時アメリカの支配下にあり、沖縄より19年早い1953年に日本復帰を果たした。行政圏こそ鹿児島だが、文化、生活、医療圏は沖縄という複雑な状況にある県境の島である。

私は、医療従事者としてこの島の人々の命を守る時、沖縄県との情報遮断のために大変苦労する状況に置かれていた。患者さんの病気の精密検査や治療のために書く紹介状はほとんど沖縄の病院である。患者さんの希望を聞いて鹿児島県内や他の地域の病院に紹介状を書く場合もあるが、圧倒的に沖縄が多いのだ。しかるに私が所属するのは当然鹿児島県の医師会なので、病院の情報ほとんど鹿児島からのもの

である。唯一、沖縄の豊見城中央病院と連携病院になっているために定期的に病院だよりが送られてくるので、診療科や医師の名前、対応出来る疾患の詳細が把握出来る。そして地域連携室との連絡もスムーズに出来、救急患者は全て受け入れてくれる。患者搬送の手段さえ確保出来れば何とかなる。

沖縄には沖縄ドクターヘリという、以前は浦添総合病院が、現在は沖縄県が運営主体となっているヘリコプターがある。日常はこのルートで問題なく搬送出来るのだが、沖縄県に1機しかないという問題がある。更にヘリコプターは経費が掛かるので、県外の与論からの搬送にはかなり厳しい条件が付けられる。患者搬送の判断は時に大変難しく、ある種の勘が検査データより正しかったという経験も何度もある。しかるに公的機関では搬送基準という理由付けが優先される。そこで期待されるのが、危険回避のためにもっと柔軟に対応してもらえる組織である。それに応じてくれるのが、沖縄のNPO法人メッシュサポートという組織である。

与論に近い名護市にあり、医療用飛行機も持っている。そしてドクター無しでも救急救命士とナースで運べるケースも想定されている。ヘリコプターの運営には1機につき、年間9千万円程

度費用が掛かり、国と沖縄本島北部地域の市町村から6千万円の補助を受け、3千万円はNPOへの寄付で運営されている。最近ではクラウドファンディングでお金を集め飛行機を購入している。飛行機は滑走路さえあれば、より早くより遠くまで飛ぶことが出来る利点がある。今までと違い、同乗しても島に送り返してくれるので仕事に支障がない。こちらを含めて今後年間1.5億円ほどの維持費が掛かる。決して運営は楽ではない。事実過去に2回ほど資金不足でストップしている。それでも救える命を救いたいとの情熱で人生をかけている若きスタッフがいます。この現状をご理解頂き、ライオンズの皆様にサポート頂ければ幸いです。

（元会長/88年入会/66歳）

連絡先・NPO法人メッシュサポート
理事長・小濱正博/〒905・8611
1 沖縄県名護市宇茂佐1712・3北
部地区医師会病院内/TEL098
0・54・1006/FAX098
0・54・1919

45 LION 2016年3月号

2月に、鹿児島県と論島にてメッシュ飛行機事業説明会を行いました。今後は、飛行機を活用し与論島から沖縄の病院へスムーズに施設間搬送をする事ができます。新しい取組により、広域での離島・僻地医療が改善されるよう活動して参りますので変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願い致します。